



子育ての頼れるサポーター！ 「あんだんて」

多賀城市家庭教育支援チーム「あんだんて」は、家庭教育や子育てに不安のある方をサポートするために2016年に活動を始めました。保育士、ピアノの先生、学校の先生などの資格や経験を持つ方がメンバーにおり、イベントでの出張託児・お宅に何う訪問託児や、親の学びのプログラム「親の道しるべ」などを行っています。「親の道しるべ」は、子育て中の親や家庭を地域全体で支援できるような環境づくりを行うプログラムで、幼稚園、保育所や小・中学校で実施。代表の佐々木啓通ひろみちさんは「子どもの成長に応じた悩み、心配事を共有して少しでも解決につなげたいと考えていますので、もっとたくさんの親御さんに参加してほしいです」と話しています。最近ではこれらの活動に加えて、親同士の情報交換会を行っています。「子育ての輪を広げていくことも含め、今後も続けていきたい」と考えているそうです。



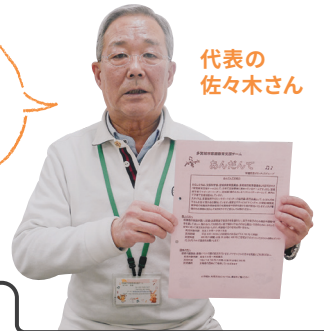
訪問託児の様子。県内の支援チームの中では「あんだんて」が初めて取り組んだそうで、毎日子育てを頑張っているご家庭の心のよりどころにもなっています。

託児や講座の申し込み・一緒に活動したいなどの
お問い合わせはこちらまで！

TEL/FAX: 022-367-5880
E-mail: andante.h285@gmail.com

ちょっとでも子育てで
困ったことがあったら、
いつでも連絡してください

代表の
佐々木さん



ヒント from たがさぼPress

たがさぼのブログから、地域づくりに役立つ記事をご紹介します！

- 2020年2月1日(土)掲載 / 「デザインガイドライン」とは？ ~NPO法人Soarの取り組みから~
- 2020年2月6日(木)掲載 / 「もったいない」気持ちが世界の食品ロスを救う
- 2020年2月15日(土)掲載 / ふりかえりのヒント「経験学習モデル」

“たがさぼPress”とは？

たがさぼスタッフによるブログ。興味があれば「たがさぼPress」へ！
<https://blog.canpan.info/tagasapo/>



“tag”のアンケートのお願い

- 今後の誌面づくりの参考にしたいと思いますので、ぜひご協力をお願いします！
また、以下のような情報もお待ちしています！
- 自分たちの団体を取材してほしい
 - ユニークな活動や、地域のためにがんばっている団体・人を知っている
 - こんな話題を取り上げてほしい

たがさぼからのお知らせ

「たがさぼPress」で、 新型コロナウイルス感染症の関連情報を発信

たがさぼのブログ「たがさぼPress」では、3月より新型コロナウイルス感染症関連の情報をお届けしています。これまで、対策や支援に関する情報、これらに取り組む団体の紹介、活動お役立ち情報などを掲載してきました。4月以降も、関連の記事を随時掲載していきますので、ご参照ください。



3月の「たがさぼPress」の記事は
こちらからご覧ください。

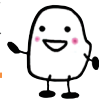


子どもの心の声に耳を傾ける 「子どもアドボカシー」

Tagajo「子どもの声を聴く」プロジェクト主催の「子どもアドボカシー」のセミナーがたがさぼで開催されました。代表の檀崎たつみさんは、東北初となるこの取り組みがこれから広がっていくことを願い活動しています。



子どもたちのお話、
ちゃんと受け止めよう!



1 「子どもアドボカシー」って？

さまざまな事情から、児童養護施設や里親のもとで生活する子ども、家が心休まる場所となっていない子ども、生活に不安を感じているが、その気持ちを受け止めてもらえず生きづらさを感じている子ども…。このような子どもたちの意見・思い・不満を受け止め、大人の考えを交えずに、必要な人や場所につなげることで子どもの権利を守る支援が「子どもアドボカシー」です。

2 自分の経験から子どもたちを支える側に

小さいころ、家に帰るのが嫌だった檀崎さんはいつも遅くまで学校に残っていたそうです。そんな檀崎さんを気にかかけ、寄り添い支えてくれたのが小学校の先生でした。その経験から、子どもを支える中学校の心のケア支援員になり、多くの子どもたちの話を聞いてきました。その中で、子ども自身の存在意義を見いだせないほどの深刻な悩みの原因が、大人が子どもの声をきちんと受け止めていないことにあると気づきました。また高齢の方から受けた相談でも、その悩みの根っこには幼い頃の声を拾ってもらえなかった悲しみがあると檀崎さんは感じていました。悩みを真剣に取り合ってもらえない、子どもだからという理由で大人の価値観で対応されてしまう、そんな子どもの心の声を拾い上げるための解決策を模索している時、檀崎さんは「子どもアドボカシー」に出会いました。

3 すべての子どもの幸せのために

関東や西日本ではすでに「子どもアドボカシー」の考えが広まり、勉強会も開催されていますが、宮城を含めた東北地方ではまだまだ知られていません。檀崎さんは講座や勉強会を定期的に開催し、活動を促進するプロジェクトチームを立ち上げたいと考えています。しかし、専門的な組織をつくり上げるためには長い時間を要します。その間にも子どもたちは悩み、つらい思いを聴いてもらえず苦しんでいるのです。「今、私たち大人ができることは、一人ひとりがアドボカシー的意識と考えを持ちながら、身近な子どもの声を拾うアドボケイト（代弁者）として接することが大切です」と檀崎さんは話しています。「子どもアドボカシー」は、決して子どもの言いなりになることではありません。子どもの声を真ん中にして、多くの大人が真剣に関わり向き合うことで、子どもたちの権利が今以上に尊重され、すべての子どもが幸せに生きられる社会へと近づきます。

【用語解説】「アドボカシー」

「擁護」や「支持をする」などの意味を持つ英語で、主に社会的弱者の権利擁護や、主張を代弁することなどを指す。



2月15日(土)に行われたセミナーの様子。この日は子どもアドボカシーについての講話と、施設で生活していた当事者の声を聴ける映像の上映もありました。



資料を見ながら、グループに分かれての講話や映像の感想、これまで感じてきたことや子どもたちの現状を話し合いました。

今後の予定

日時 2020年5月16日(土) 14:00～16:00
会場 TKPガーデンシティ勾当台
講師 栄留里美氏(大分大学福祉健康科学部助教)
主催 自死予防多職種連携団体・みやぎの萩ネットワーク

お問い合わせ

Tagajo「子どもの声を聴く」プロジェクト
E-mail: o.tatsumi@nifty.com

What's? //



「tag」には、多賀城(tagajo)の頭3文字、みんながタグを組んで地域をつくる、多賀城に新しいタグ(価値)をつける、という意味が込められています。



@tagasapo
たがさぼのツイッターへの
フォローをお願いします!



<https://www.tagasapo.org/>
たがさぼのホームページは
こちらへアクセス!